

OpenAI 「GPT-5.5」 詳細分析

知財実務への影響と活用戦略

発行日:2026年4月24日

作成: Claude Opus 4.7

対象: 弁理士、企業知財部、IP戦略コンサルタント、法務部門

エグゼクティブ・サマリー

OpenAIは米国時間2026年4月23日(木)、汎用基盤モデル「GPT-5.5」および上位版「GPT-5.5 Pro」を公式ブログ「Introducing GPT-5.5」で発表し、同日より ChatGPT(Plus/Pro/Business/Enterprise) および Codex への段階的配信を開始した^{1,2,3}。OpenAI自身がGPT-4.5以降「初の完全再訓練(ground-up retrain)」と位置付けるベースモデルであり、API経由では1Mトークンのコンテキストウィンドウを初めて標準提供する点が技術的な節目となる⁴。Artificial Analysisの独立評価では、GPT-5.5(xhigh)がIntelligence Index v4.0で60ポイントを記録し、Claude Opus 4.7(max)および Gemini 3.1 Pro Preview(いずれも57)を3ポイント上回ってトップに立った^{5,6}。

一方で、Humanity's Last Exam(HLE、ツールなし)ではClaude Opus 4.7が46.9%で首位を維持、SWE-Bench Pro や一部マルチリンガル評価(MMMLU)では Anthropic・Google 勢が優位を保っており、GPT-5.5は「全面制覇」ではなく「エージェント実行・知識労働に選択的特化」した再訓練であると読むのが妥当である⁷。APIは「近日公開」とされ本稿執筆時点では未提供で、提供価格は入力5ドル/1M・出力30ドル/1M(GPT-5.4の1.75ドル/14ドルから約2倍)、GPT-5.5 Proは入力30ドル/出力180ドルと公表されている^{2,8}。

本レポートは、(1)OpenAI公式一次情報に基づく仕様の確定、(2)第三者ベンチマーク・主要評論家によるクロスチェック、(3)競合モデルとの精緻な比較、(4)特許・商標・意匠・著作権・IPガバナンス各領域への具体的実務インパクト、(5)弁理士法75条をはじめとする日本の法規制・倫理上の留意点、(6)日本の知財実務者への提言、を学術的フォーマットで整理したものである。誇大表現を避け、実証可能なベンチマーク結果と公式情報に基づく記述とし、不確定な情報は明示的にその旨を記載している。

第 1 章 GPT-5.5 の基本仕様と発表内容(一次情報)

1.1 発表日と正式表記

OpenAI は米国時間 2026 年 4 月 23 日(木)午前(太平洋時間)、公式ページにて「Introducing GPT-5.5」を公開、同日付でシステムカードを併せて公表した^{1,9}。日本時間では 4 月 24 日未明の発表となる。モデル名の正式表記は OpenAI 公式表記に倣い「GPT-5.5」および「GPT-5.5 Pro」で、API 識別子は gpt-5.5 および gpt-5.5-pro となることが公表されている²。社内コードネームは「Spud(じゃがいも)」と複数の信頼できる報道(Axios 等)で報じられた¹⁰。日経クロステックも同日付で日本語報道を行っている¹¹。

1.2 提供形態と料金

発表時点での提供形態は以下のとおりである^{1,2}。

提供経路	利用可能モデル	提供開始	価格
ChatGPT Plus/Business/Enterprise	GPT-5.5(Instant・Thinking)	2026 年 4 月 23 日	プラン内
ChatGPT Pro/Business/Enterprise	GPT-5.5 Pro	2026 年 4 月 23 日	プラン内
Codex(Plus/Pro/Business/Enterprise)	GPT-5.5	2026 年 4 月 23 日	プラン内、Fast=2.5 倍コスト
API(Responses/Chat Completions)	gpt-5.5	「very soon」	入 5.00 ドル/出 30.00 ドル/1M
API	gpt-5.5-pro	「very soon」	入 30.00 ドル/出 180.00 ドル/1M
ChatGPT Free/Go	不提供	—	前世代モデル継続

Batch/Flex API は標準料金の 50%、Priority processing は 2.5 倍、コンテキストウィンドウは Codex 内 400K トークンかつ API で 1M トークン(入出力合計)で、GPT-4.5 以降初のフル再訓練ベースモデルであると OpenAI は説明している^{4,8}。1M トークン・コンテキストは OpenAI API モデルとして初のデフォルト提供となる⁴。

1.3 技術的特徴

OpenAI は本モデルの設計上の主眼を「エージェント的コンピュータ使用」「コーディング・デバッグ」「オンライン調査」「データ分析・文書・スプレッドシート作成」「ツール間の連続作業」と明記している¹。特に以下の3点が前世代との大きな差分である。

(1)自律実行性の向上。曖昧・多段階の指示でも、計画立案・ツール選択・自己検証・継続実行を自力で行う傾向が強まり、ユーザが各ステップを細かく管理する必要が大幅に減少する¹。

(2)トークン効率。同一タスクにつき GPT-5.4 より少ないトークン数で高品質な出力を生成する。Artificial Analysis の計測でも、Intelligence Index 実行時に GPT-5.4 対比で約 40%のトークン削減を確認し、1 トークン単価 2 倍の値上げを概ね相殺している⁵。

(3)レイテンシ同等。通常「大きなモデルほど遅い」トレードオフを崩し、実運用における 1 トークンあたり提供速度は GPT-5.4 と同等に保たれている¹。

推論努力度(reasoning effort)は low/medium/high/xhigh に加え非推論モードが選択可能で、コスト・速度・精度を動的に調整できる^{6,12}。マルチモーダル入力はテキスト・画像に対応(音声・動画は ChatGPT 側の他モダリティ統合で対応)、出力はテキスト中心である⁶。知識カットオフは OpenAI 公式の詳細記載はないが、直前の GPT-5.4 が 2025 年 8 月 31 日カットオフ、画像生成モデル gpt-image-2(4月21日発表、知識カットオフ 2025 年 12 月)と整合する系統である^{13,14}。

1.4 公表ベンチマーク

OpenAI 公式発表値¹および第三者検証(Artificial Analysis、Kiny AI 等)^{5,7}を統合したスコアは以下のとおり。

ベンチマーク	GPT-5.5/Pro	GPT-5.4	Claude Opus 4.7	Gemini 3.1 Pro
AA Intelligence Index v4.0	60(xhigh)	57	57(max)	57
Terminal-Bench 2.0	82.7%	75.1%	69.4%	68.5%
SWE-Bench Pro	58.6%	57.7%	64.3%	—

ベンチマーク	GPT-5.5/Pro	GPT-5.4	Claude Opus 4.7	Gemini 3.1 Pro
GPQA Diamond(no tools)	93.6%	—	94.2%	94.3%
Humanity's Last Exam	43.0-44.3%	—	46.9%	44.7%
GDPval-AA(Elo)	1785(84.9%)	—	約 1755	約 1317
BrowseComp	84.4%(Pro 90.1%)	—	79.3%	85.9%
FrontierMath Tier 4	39.6%(Pro)	—	22.9%	—
ARC-AGI-2	—	—	—	77.1%
MMMLU(多言語 QA)	83.2%	—	91.5%	92.6%
MCP-Atlas	75.3%	—	77.3%	—

Artificial Analysis v4.0 は GDPval-AA、 τ^2 -Bench Telecom、Terminal-Bench Hard、SciCode、AA-
LCR、AA-Omniscience、IFBench、Humanity's Last Exam、GPQA Diamond、CritPt の 10 評価の加
重平均である^{5,6}。OpenAI 自身も SWE-Bench Pro に関する Anthropic 側のメモリゼーション兆候に言
及する一方、本モデル自体もメモリゼーション指摘に対して慎重な扱いを呼びかけている^{1,7}。安全面
では、200 社近い早期アクセスパートナーによるレッドチーミング、生物・サイバーの専門評価を経て
「過去最強のセーフガード」で出荷されたと OpenAI が説明し、同日発行のシステムカードに詳細が記
載されている⁹。なお NVIDIA は、同社社員 1 万名以上が数週間にわたり GPT-5.5 版 Codex を業務で
利用したと発表しており、GB200 NVL72 を利用した推論の経済性も報じられている¹⁵。

1.5 前世代からの差分

OpenAI の公式リリースサイクルとしては、GPT-5(2025 年 8 月)、GPT-5.1(11 月・11 月廃止)、GPT-
5.2(12 月)、GPT-5.3(2026 年 2 月)、GPT-5.4(2026 年 3 月 5 日)、GPT-5.5(2026 年 4 月 23 日)と高頻
度の刻みで更新されている^{16,17,18}。GPT-5.5 は、GPT-5.4 からは主にエージェント型コンピュータ使
用・知識労働・長距離推論の 3 軸で跳ね、GPT-4.5 以降初のベース再訓練という事実が最大の構造差
である⁴。ChatGPT のモデルピッカーでは引き続き Instant/Thinking/Pro の 3 階層が採用され、GPT-
5.3 Instant は依然として全ログインユーザー向けのデフォルト、GPT-5.5 Thinking と GPT-5.5 Pro は有

料プラン限定である¹⁹。

第 2 章 第三者による評価

2.1 英語圏主要技術メディア

TechCrunch は「Brockman 共同創業者が GPT-5.5 を『新しい知能クラス』と形容し、『ツール使用と計画をさらに自律的に行う』ことを強調した」と報じ、将来的な「スーパーアプリ」(ChatGPT+Codex+AI ブラウザの統合)への布石と位置づけた³。CNBC は銀行(Bank of New York)での早期テスト結果を引用し、CIO Leigh-Ann Russell 氏が「回答の質に加え、幻覚耐性の顕著な改善」を評価したと報じた^{20,21}。Bloomberg、Fortune、Axios、SiliconANGLE も一斉に 4 月 23 日付で報道し、Axios は社内コードネーム「Spud」を初報、Fortune は「Anthropic に対する『コードレッド』直後の戦略転換」という文脈を強調した^{10,20,21,22}。

2.2 研究者・評論家のコメント

Simon Willison(LLM 評論家)は同日ブログで「プレビューアクセスを得て試用したところ、速く、効果的、かつ極めて能力が高い」と簡潔に評価する一方、「API 公開が同日ではないため、pelican SVG ベンチマーク(Willison 氏の恒例テスト)は Codex 経由の『裏口 API』で実施せざるを得なかった」と指摘し、API の遅延提供を業界的な「エージェントハーネスと API の緊張」の文脈で分析した²³。

Ethan Mollick(ペンシルベニア大学 Wharton 校、AI 研究者)は「Sign of the future: GPT-5.5」で、「大きな節目であり、AI の急速な改善は継続している。ただし AI 能力の『ジャグド・フロンティア』はまだ残っており、長編フィクションの一貫性、独自比喩の陳腐化、過剰に華美な文体などに弱点が残る」と評した²⁴。「o3 から本モデルまでの 1 年強で、AI がこれほど『思い描いた仕様通りに構築する』ようになるとは想像しづらかった」と述べつつも、「数モデル世代にわたる均等な段階的改善の典型例であり、革命ではない」との両面評価を下している²⁴。

2.3 ベンチマーク比較

Artificial Analysis は 4 月 23 日に独立評価記事「OpenAI's GPT-5.5 is the new leading AI model」を公開し、以下を主要知見とした⁵。

(1)Intelligence Index では 3 年続いた三つ巴(OpenAI/Anthropic/Google=57)を 3 ポイント差で打破(xhigh=60、high=59、medium=57、low=51、Non-reasoning=41)。

(2)GPT-5.5(medium)は Claude Opus 4.7(max)と同じ Intelligence Index 上でコストが約 1/4(1,200 ドル対 4,800 ドル)。Gemini 3.1 Pro Preview は約 900 ドルで同等水準のため、絶対的コストリーダーは Gemini だが、OpenAI は「中程度推論で十分な品質」を実現している⁵。

(3)OpenAI は 10 評価のうち 5 つでトップ(Terminal-Bench Hard、GDPval-AA、APEX-Agents-AA、AA-Omniscience、 τ^2 -Bench Telecom)だが、3 評価(GPQA Diamond、HLE、ARC-AGI-1)では Gemini 3.1 Pro に譲り、AA-Omniscience の知識正答率は過去最高ながら幻覚では依然フロンティアに劣後する⁵。

2.4 弱点・限界の指摘

各種ソースから整理した主たる弱点・留意事項は以下のとおり。

(1)API 価格の実質 2 倍化。入出力とも GPT-5.4 比で倍(2.50 ドル/15 ドル→5.00 ドル/30 ドル)^{8,25}。約 40%のトークン効率改善があっても、Intelligence Index 実行コストは純増で約+20%となる⁵。エージェントループで出力トークンが爆発する実運用では予算超過リスクがある²⁵。

(2)API 未提供期間のリスク。4 月 23 日時点で API は未公開(「very soon」表記)^{1,23}。API 前提でのシステム設計は公開待ちとなる。

(3)サイバー向け分類器強化に伴う拒否率上昇。セキュリティ診断、内部監査、ペネトレーションテスト、レッドチーム演習等の正当な用途でも拒否される可能性が指摘されている^{9,12}。

(4)純粋推論系の頂点は譲る場面あり。HLE(ツールなし)、GPQA Diamond、ARC-AGI-1 では Claude Opus 4.7 または Gemini 3.1 Pro が上位で、「PhD 級の純粋推論」でのナラティブは Claude/Gemini に部分的に残る⁷。

(5)マルチリンガル QA(MMMLU)でのギャップ。83.2%は Claude Opus 4.7(91.5%)・Gemini 3.1 Pro(92.6%)に大きく劣後し、非英語業務での評価は用途別に要検証⁷。

(6)長編フィクション・クリエイティブライティングの定性的弱点。Mollick が指摘する独特の文体・比

諭の反復²⁴。

(7)Azure での提供可否は現時点未確認。Microsoft Foundry 経由の提供計画は公式アナウンスが確認できていない¹²。

第 3 章 競合モデルとの比較

3.1 Anthropic Claude Opus 4.7(2026 年 4 月 16 日 GA)

Claude Opus 4.7 は 2026 年 4 月 16 日に一般提供が開始され、GPT-5.5 の 1 週間前にリリースされた直接の競合である^{26,27,28}。料金は入力 5 ドル/出力 25 ドル(Opus 4.6 から据え置き)、ただし更新トークナイザの影響で同一文書が 1.0~1.35 倍のトークンに換算される点に留意が要る²⁷。主要スコアは SWE-bench Verified 87.6%(Opus 4.6 比+6.8pt)、SWE-bench Pro 64.3%(同+10.9pt)、GPQA Diamond 94.2%、Terminal-Bench 2.0 69.4%、Finance Agent v1.1 64.4%(SOTA)、CursorBench 70%(同+12pt)、視覚解像度は 2,576px(3.75MP、従来の約 3.3 倍)に拡張された^{26,29}。

使い分けの目安:長時間のソフトウェア・エンジニアリング・エージェントとビジョン・リッチな文書理解(高解像度スクリーンショット・設計図)は Claude Opus 4.7 優位^{26,29}、短時間タスクの完了率、ターミナル自律実行、経済価値タスク群(GDPval)は GPT-5.5 優位⁵。価格では Opus 4.7 のほうが出力単価が低く、長文出力で有利。なお Anthropic は同時期にセキュリティ研究者向けの「Claude Mythos Preview」を限定公開しており、セキュリティリスクから一般公開を見送る事例が初めて発生した^{20,29}。

3.2 Google Gemini 3.1 Pro(2026 年 2 月 19 日プレビュー)

Google DeepMind は 2026 年 2 月 19 日、Gemini 3.1 Pro をプレビューリリースした^{30,31}。料金は入力 2 ドル/出力 12 ドル(200K トークン超では 4 ドル/18 ドル)、1M トークンコンテキスト(テキスト・画像・音声・動画ネイティブ)で、ARC-AGI-2 で 77.1%(Gemini 3 Pro 比+46pt)、GPQA Diamond 94.3%、LiveCodeBench Pro 2887 Elo など GPT-5.5 公開前の時点でフロンティアを形成していた^{30,32}。Deep Think 機能による「数十年未解決の数学予想の反証」等の研究成果も話題となった³⁰。

使い分けの目安:最長コンテキスト・ネイティブ・マルチモーダル(動画・音声)・純粋推論(ARC-AGI-2、HLE)は Gemini 優位^{30,32}。GDPval-AA(経済価値タスク)では、Artificial Analysis も Gemini 3.1 Pro

が改善はしたものの首位奪取には至っていないと明記しており、エンタープライズ知識労働は GPT-5.5・Claude Opus 4.7 が強い^{31,33}。価格コストリーダーは Gemini 3.1 Pro Preview⁵。

3.3 xAI Grok、Meta Llama、中国系モデル

Grok 系は本稿時点で Grok 4.2.0 0309 v2 が Intelligence Index 49、Kimi K2.6(Moonshot AI、4月20日公開、1T 総パラメータ/32B 活性化、Modified MIT ライセンス)が 54、GLM-5.1 が 51、DeepSeek V3.2 が 42 と、オープンウェイト・中国系の上位はフロンティア近傍まで肉薄した^{6,34}。コスト優位性は顕著で、DeepSeek V3.2 は GPT-5.4 の 1/50 コストで約 90%の品質を実現すると報じられている³⁵。日本企業でのオンプレ(ローカル LLM)選択肢として存在感が拡大しているが、機密データを扱う知財業務では情報セキュリティ体制と中国法上のデータ取扱いリスクに特別の検討を要する³⁶。

3.4 日本語性能

Weights & Biases Japan の「Nejumi Leaderboard 4」(日本語 LLM の包括評価)2025年12月18日版では、GPT-5.2(xhigh-effort)が総合スコア 0.8285 で首位、次いで Gemini 3 Pro Preview 0.8134、Claude Opus 4.5 0.8064 と、日本語でも OpenAI 系が優位を確立した³⁷。GPT-5.5 の Nejumi 公式スコアは本稿執筆時点では公開されていないが、OpenAI は総合的な指示追従・コンテキスト理解を強化したと発表しており、日本語実務評価の公表が待たれる^{1,37}。ELYZA-tasks-100 や Japanese MT-Bench 等の個別評価は現時点で公式値なし。

第4章 知財特化 AI ツールへの影響

4.1 特許明細書・ドラフティングツール

Solve Intelligence(米国、2025年4月にシリーズ A 1,200 万ドル、2025年12月にシリーズ B 4,000 万ドル、累計 5,250 万ドル調達)は、Microsoft 系の投資も受け、ブラウザ内ドキュメントエディタ型で特許ドラフティング・プロセキューション・クレームチャーティングを統合する方向に進化中である^{38,39,40}。2026年1~2月時点で 400 以上の IP 事務所・企業(DLA Piper、Siemens、Finnegan、BCLP 等)が採用中と同社ブログが報じた⁴⁰。

GPT-5.5 の API 提供が始まれば、既存の専用ツールは基盤モデル選択肢として組み込むことが想定さ

れる。Solve Intelligence は公開資料で基盤モデル非依存のアーキテクチャを強調しており、GPT-5.5・Claude Opus 4.7 の両方を使い分けるハイブリッド運用が現実解となろう³⁸。他方、DeepIP(発明ハーベスティング起点)との比較では、GPT-5.5の長コンテキスト(1M)は巨大な発明提案書・既存ポートフォリオの一括分析に直接効く³⁸。

日本国内では、Tokkyo.Ai の「生成 AI Plus」が発明届・発明提案書の作成支援を提供し⁴¹、Toreru が「Toreru 発明支援」(2025 年 7 月リリース、AI が課題から発明アイデアを生成)・「Toreru 特許」(2024 年 12 月リリース、AI ヒアリング+弁理士のハイブリッド)を展開している⁴²。ユアサポ AI は Microsoft Word 上で過去出願データを学習して明細書を自動生成するローカル型で、守秘性を担保する設計である⁴³。いずれも GPT 系モデルを基盤に用いるケースが多く、GPT-5.5 のトークン効率改善とエージェント自律性向上は、発明提案書からクレーム案・実施形態記載までの「一筆書き生成」を実現する技術的素地となる。

4.2 特許調査・先行技術調査ツール

Patentfield は「Patentfield AIR」として、Patentfield 本体のセマンティック検索・マップ分析と生成 AI 要約を統合し、「GPT-4o-mini 利用時に月額 3 万円プランで約 2 万件処理が可能」「査読時間を約 65%削減」と公表している^{44,45}。Amplified(サンフランシスコ)は審査結果・無効審判をベンチマークとした類似文献検索で人間と同等かそれ以上の精度を実証したとする⁴⁶。IPRally(フィンランド、グラフ AI ベース)は 15 年特許実務経験者の創業で、Google-Docs 型 UI+独自知識グラフで検索精度の説明可能性を売りとし、日本語を含む 11 言語対応⁴⁷。

GPT-5.5 の BrowseComp(ウェブ情報探索)Pro 90.1%⁷および MCP ツール利用性能の向上により、これら専用ツールは「検索母集団生成→GPT-5.5 による一括査読・要約→クレームとの対比表自動生成」の自動化度を一段上げられる。特に OpenAI 発表の GDPval(44 職種の経済価値タスク、Elo 1785)でトップを獲ったことは、知的労働の自動化に関する OpenAI 自身の強い自己評価の裏付けであり、特許査読・無効資料調査への展開余地は大きい⁵。ただし、特許庁 JPO 委託研究は先行技術調査支援 AI の開発実証で「GPT-2 をベースに分析した実証レベル」と報告しており⁴⁸、実務現場では依然「AI は母集団生成と粗選別に強く、最終決定は弁理士・サーチャー」という分業が定着する公算が高い。

4.3 IP ランドスケープ・ポートフォリオ分析ツール

旭化成は IP ランドスケープを経営計画に組み込み、米 Sage Automotive Interiors 買収後のシナジー分析に実利用^{49,50}、ブリヂストンはコネクテッドカー領域の IP ランドスケープを M&A 決定に活用し、蘭車両データ会社の 1,100 億円超買収に繋げた事例がある⁴⁹。三井化学は生成 AI を用いた社内特許チャットで研究者の調査時間を 80%削減し、新規用途探索・営業支援に展開⁵¹。Mixi や Deloitte Tohmatu のアナリティクス部門もクラスタリング・次元削減・技術地図作成を AI で自動化している⁵²。

GPT-5.5 の 1M トークンコンテキストと長時間エージェント実行能力は、「1社あたり数万件規模の特許を文書単位で読解→白地(white space)抽出→共同発明者ネットワーク分析→M&A 候補先提案」までを単一プロンプトで自動化する可能性を開く。従来はエンベディング+k-means など機械学習手法の別段階として構成していた処理を、GPT-5.5 単独のエージェント・ループで完結させられる見込みが立つ。ただし出力コスト 30 ドル/1M は分析のスケール制約となり、Artificial Analysis も「Intelligence Index 全走査が約 500~1,200 ドル」と指摘するコスト感を踏まえ、バッチ API(50%割引)の併用が現実的である^{5,8}。

4.4 商標 AI ツール

Toreru は 2022 年 9 月に日本初の AI による無料商標調査・出願サービスを再開、2019 年から画像認識による類似商標検索エンジンを提供、2025 年には区分ヒアリングの自動化・ウィーン分類特定などに生成 AI を実装済みである^{53,54,55}。TrademarkNow、Corsearch、Alter、Brandverity 等の海外ツールは GPT 系・Claude 系の API を取り込む方向にある。GPT-5.5 の画像入力とマルチリンガル性能は、ロゴ商標の類否判断(視覚的類似)・称呼類似の横断判定を支援するが、MMMLU で他社モデルに劣後する点は多国間商標ウォッチで要注意⁷。

4.5 翻訳・法律業務支援ツール

翻訳分野では RWS Language Weaver、WIPO Translate、ROSETTA(日本特許翻訳)、T-400 などが特許特化翻訳を提供するが、GPT-5.5 は Japanese MT-Bench 等のスコア未公表ながら一般機械翻訳品質は従前の GPT を上回ることが期待される。一方で法務テック分野では Harvey AI(2026 年 3 月に 2 億ドルを調達、評価額 110 億ドル、10 万名以上の大手法律事務所ユーザ)と Legora(2026 年 3 月に 5.5 億

ドル調達、評価額 55.5 億ドル)が「リーガル AI の二強」として資金調達を加速しており^{56,57}、両社とも GPT-5.4・Claude Sonnet 4.6 のマルチモデル基盤を採用するため、GPT-5.5 が加わることで弁護士業務の品質向上とコスト最適化が進む見込みである⁵⁸。

4.6 OpenAI 直接利用 対 知財特化ツール——費用対効果シフト

GPT-5.5 の API 公開後、弁理士事務所・企業知財部の投資判断は以下のマトリクスで整理される。

用途	OpenAI 直接利用が有利	知財特化ツールが有利
発明提案書ブラッシュアップ・翻訳	◎(汎用性と速度重視)	—
先行技術調査(母集団生成)	△(要エージェント組込み)	◎(分類器・DB 連携)
査読・ラベル付け	△(1000~1 万件規模)	◎(検索→査読ワンストップ)
明細書ドラフティング	△(プロンプト・セキュリティ自前)	◎(Word アドイン・過去学習)
IP ランドスケープ大規模分析	◎(1M コンテキスト活用)	◎(可視化・KPI 組込み)
商標類否(外観・称呼・観念)	△(画像入力可)	◎(ウィーン分類・類似基準連動)
秘密性の極めて高い発明処理	×(API でも送信懸念)	◎(オンプレ・ローカル LLM)

秘密性の観点からは、ローカル LLM(Kimi K2.6・Qwen 系・LLM-jp-4 等)^{34,59} をオンプレで運用する知財特化ツールが、GPT-5.5 の性能上昇に伴う優位を維持する可能性が高い領域として残る。

第 5 章 知財実務への具体的インパクト

5.1 特許実務

(a) 明細書ドラフティング

GPT-5.5 は Terminal-Bench 2.0 82.7%¹ が象徴する「構造化文書の一貫生成」に強く、請求項の多段構造・実施形態の記載・図面説明の自動化に直接効く。Artificial Analysis による GDPval-AA 1785 Elo および OpenAI の GDPval 84.9%^{1,5} は、経済価値のある実務文書作成の実測値であり、特許明細書のドラ

フト工程の自動化可能性を強く示唆する。ただし日本の実務では、「請求項をどう切るか」「阻害要因をどう構成するか」といった戦略的判断が残り、GPT-5.5 はあくまで弁理士の監督下での下書き支援と位置付けるべきである。

(b) 拒絶理由通知対応

JPO 審査基準第 III 部第 2 章第 3 節の「進歩性の判断プロセス」と「意見書・補正書」作成は GPT-5.5 の長コンテキストが直接寄与する領域である^{60,61}。引用例の認定、一致点・相違点抽出、阻害要因(副引用の適用を妨げる事情)・設計変更該当性の検討、動機付けの有無判断は、1M トークンコンテキストで拒絶理由通知・主引用・副引用・明細書・出願経過をすべて同時参照できる点が技術的利得となる。「後知恵防止」を含む審査基準の仔細の把握は GPT-5.5 の指示追従力で相当程度再現可能と見込まれるが、最終判断は弁理士責任である。

(c) 先行技術調査・FTO・無効資料調査

BrowseComp 84.4%(Pro 90.1%)¹のウェブ探索能力は PubMed、CNIPA、EPO のデータソースを跨ぐ横断調査に寄与する。AI による簡易調査で「弁理士の鑑定」に該当しない範囲でのサービス(経済産業省のグリーゾーン解消制度で整理された線引き)がさらに拡張可能となる⁶²。

(d) 国際出願・五大特許庁対応

中国(CNIPA)、韓国(KIPO)、EPO はいずれも AI 関連発明の特許適格性に独自基準を適用しており⁶³、各庁向けのクレーム構造最適化(例:EPO の「技術的效果」基準、CNIPA の「技術的特徴」基準)の使い分けに翻訳+法的構造解釈を一体化できる GPT-5.5 は有用である。ただし MMMLU 等で非英語性能が他社モデルに劣る点⁷から、中国語・ドイツ語等の起草支援では Claude Opus 4.7 または Gemini 3.1 Pro との併用が現実的。

5.2 IP ランドスケープ・特許分析

既述のとおり、旭化成、ブリヂストン、三井化学などの先進事例^{49,50,51} と比べ、GPT-5.5 は「多段階分析をエージェント単独で遂行する」自律性を付与する。具体的には以下のフローが期待される。

(1) 対象業界の特許約 10,000 件を API 入力→クラスタリング仮説生成。

(2)各クラスを代表する主要出願人と出願動向をウェブ検索で補完(BrowseComp)。

(3)競合特許の進歩性・権利範囲評価を生成。

(4)自社ポートフォリオとの白地・重複を同定。

(5)M&A 候補先・ライセンスターゲットのランキング案を出力。

これらは従来、複数ツール(Patentfield+PatentSight+Derwent+人手レポート)の組合せで数週間を要した分析だが、GPT-5.5 の 1M コンテキスト+エージェント実行により数時間~1 日単位での試行が可能になる見込みである(コストは出力 30 ドル/1M の制約あり)。

5.3 商標実務

類否判断(4 条 1 項 11 号)、称呼・観念類似の判定、商標ウォッチング、ネーミング開発は、GPT-5.5 の画像入力+MMMLU 性能(83.2%、競合劣後)⁷ と類似商品・役務審査基準(国際分類第 13-2026 版対応)との組合せで支援される⁶⁴。特に、第 13-2026 版が 2025 年 12 月に改訂されている点⁶⁴は、GPT-5.5 の知識カットオフ(GPT-5.4 時点で 2025 年 8 月)との整合確認が必要である。日本弁理士会の「AI 等を用いた業務支援サービスの提供と弁理士法第 75 条との関係について」(2025 年 4 月)は、AI 類否判断サービスが「鑑定」に該当し得る場合には無資格事業者の提供は 75 条違反になり得ると明示している⁶²。

5.4 意匠実務

日経報道等によれば、政府は「知的財産推進計画 2025」で仮想空間上のデザイン保護を盛り込み、意匠法改正案を 2026 年の通常国会に提出する方針を明記、「物品等の形状を表した画像」を保護対象に加える^{65,66}。Aztec 社のレポートによれば、産業構造審議会意匠制度小委員会では第 20 回会合まで議論が継続し、メタバース上の仮想物品の意匠登録・明確性基準・侵害成立要件が焦点である⁶⁷。意匠法改正に伴う Locarno 分類検索・生成 AI による意匠デザイン大量生成問題への対応も意識された制度設計が進む⁶⁵。GPT-5.5 は画像入力に対応し、意匠データベース検索(J-PlatPat、EUIPO DesignView)のクロス検索エージェントの構築に寄与するが、精細な意匠類否判断は Claude Opus 4.7 の 3.75MP 高解像度ビジョン²⁶のほうが優位であろう。

5.5 著作権・契約実務

Harvey AI と Legora がリードするリーガル AI 市場^{56,57}は、ライセンス契約、秘密保持契約、共同開発契約のドラフティング・レビューで既に実用フェーズにあり、GPT-5.5 の長コンテキストは複雑な契約書の横断レビューに適する。AI 学習データへの著作物利用問題は、文化庁著作権課「生成 AI をめぐる最新の状況について」(2025 年 9 月)以降、法制審議会が継続議論中で、日本では著作権法 30 条の 4 との関係整理が続く⁶⁸。

5.6 IP ガバナンス・知財経営

2021 年改訂のコーポレートガバナンス・コードが知財投資の開示と取締役会による監督を実質義務化し、2022 年 1 月の「知財・無形資産ガバナンスガイドライン」Ver.1.0、2023 年改訂版 Ver.2.0 が整備済みである⁶⁹。IPIAGPA(一般社団法人 知財・無形資産ガバナンス推進協会)は 2024 年 10 月に「知財・無形資産ガバナンス表彰」を創設し、2025 年度はアシックスが最優秀賞を受賞、デクセリアルズが第 1 回特別賞を受賞した^{70,71,72}。IPIAGA(知財・無形資産ガバナンス協会)は 2025 年 6 月 10 日に定時社員総会・設立記念式典を開催⁷³。GPT-5.5 は、統合報告書・有価証券報告書の知財関連記述の自動ドラフト、重要 KPI(特許質、特許価値、特許出願件数の経年比較)の抽出、IP ランドスケープ分析結果の経営層向けサマリ化で直接的に活用余地がある。

5.7 法規制・倫理

弁理士法 75 条は、弁理士でない者が他人の求めに応じ報酬を得て特許・実用新案・意匠・商標に関する特許庁手続の代理、鑑定、政令で定める書類の作成を業とすることを禁止する⁶²。日本弁理士会の 2025 年 4 月ガイドライン⁶²によれば、(a)無資格事業者が AI 特許出願書類作成サービスを提供し、代理人欄に自社名を記載した場合は 75 条違反になり得る、(b)商標類否判断を伴う場合は「鑑定」に該当し得る、(c)ただし弁理士の監督下で利用する場合は違法ではない、との枠組みが示されている。また、パテント誌 Vol.75 No.2 論文「弁理士業務と AI 特許作成」は、最終責任を負う弁理士との誓約書等の整備を推奨する⁷⁴。

国際的には、EU AI Act は 2026 年 8 月 2 日に大部分が完全適用、2027 年 8 月 2 日にハイリスク AI システムが完全適用となるスケジュールである^{75,76}。日本では 2025 年 5 月 28 日に AI 推進法(人工知能関

連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律)が成立、同年9月1日から全面施行済み^{76,77}。総務省・経産省の「AI事業者ガイドライン」は2024年4月初版、2025年3月にv1.1に更新され、2026年2月にはAIエージェント・フィジカルAI対応のv1.2更新案が公表されている⁷⁷。デジタル庁「行政の進化と革新のための生成AIの調達・利活用に係るガイドライン」(2025年5月27日閣議決定)も整備済みで、政府調達に関わる知財関連AIサービスには追加的なリスクマネジメントが求められる⁷⁸。

JPOの「AI関連技術に関する特許審査の事例」⁷⁹は直近でも継続的に更新されており、GPT-5.5を用いたAI関連発明の明細書作成時には、審査基準と事例を両方参照する必要がある。USPTO、EUIPO、CNIPAはそれぞれAI発明の発明者性・適格性ガイドラインを持ち、基盤モデル移行期においては各庁対応のクレーム構造の微差を実務で吸収する必要がある⁶³。

第6章 日本の知財実務者への具体的提言

6.1 IP戦略コンサル業務での活用法

GPT-5.5は、よろず知財戦略コンサルティングのようなIP戦略支援業務で、(1)1Mコンテキストの特許読解による仮説生成、(2)技術ロードマップと競合ポジショニング自動作成、(3)M&Aターゲット候補のリストアップ、(4)経営層向けスライド原稿の自動作成に使える。IPランドスケープ推進協議会・IPIAGPAの定める評価軸(ROIC改善、無形資産増大)に整合するKPI提案の一次ドラフト化が特に有効である^{70,72}。

6.2 事務所・企業知財部への導入ステップ(推奨)

Phase 1(30日以内・評価フェーズ)

- (1)ChatGPT Business/Enterprise アカウント取得、データガバナンスポリシー策定(機密発明情報の扱い、学習利用オプトアウト、二重承認ルール)⁸⁰。
- (2)既存の重要案件3~5件をGPT-5.4(継続提供中)と5.5の両方で走らせ、品質・時間・コストを比較記録。
- (3)弁理士監督体制下のAI使用ガイドライン(社内版)策定、弁理士法75条・守秘義務との整合確認⁶²。

Phase 2(60~120 日・パイロット)

- (1)Patentfield AIR、Solve Intelligence、Toreru 特許等の知財特化ツールを導入評価。
- (2)GPT-5.5 API 公開後の実コスト測定(バッチ・優先処理プランの選定)。
- (3)無効資料調査・FTO 調査の社内テンプレート化と自動化比率 KPI 設定。

Phase 3(180 日以降・定着)

- (1)知財部員の「AI 監督責任」職務定義書への反映。
- (2)顧客・発明者向け AI 関与開示ポリシー策定(EU AI Act 域外適用への備え)⁷⁵。
- (3)生産性測定ダッシュボード(時間削減率、拒絶理由通知応答品質、特許スコア)の運用。

6.3 弁理士業務の変革予測(2026-2030 年)

Ethan Mollick が指摘する「AI のジャグド・フロンティアは依然残るが、辺境はかつてなく遠くなった」という現実を踏まえると²⁴、定型的な実務(先行技術調査の母集団生成、明細書ドラフト、翻訳、拒絶理由通知応答の一次ドラフト)は GPT-5.5~6 世代で大半が自動化に近づく。弁理士の中核価値は、(i)発明の本質抽出と請求項設計の戦略的判断、(ii)補正・阻害要因立証の法律構成、(iii)審判・訴訟対応、(iv)知財経営のコンサルティング、(v)AI 出力の監督・最終責任——にシフトする。Sam Altman 氏(OpenAI CEO)が 2025 年 6 月インタビューで「2026 年は発明(Innovator)の AI 年」と予測した構図は⁸¹、弁理士にとっても「AI による発明支援」を業務フローに組み込む転機を意味する。

6.4 2026 年意匠法改正・JPO 審査基準改訂への応用

仮想空間デザイン保護の意匠法改正(2026 年国会提出予定)^{65,67}、類似商品・役務審査基準(国際分類第 13-2026 版対応)の 2025 年 12 月改訂⁶⁴、JPO の進歩性・記載要件・新規性・ディスクレマ運用に関する審議会議論^{60,61}——これらのパブリックコメント作成・意見整理に GPT-5.5 の 1M コンテキスト +BrowseComp は高い適性を示す。制度趣旨の抽出、海外(EPO・USPTO・CNIPA)対応法令の比較表作成、日本弁理士会・日本知的財産協会の過去意見の参照を、少人数でも精度高く行える。

6.5 知財教育への応用

大学知財教育、弁理士試験対策、企業内研修の場面で、GPT-5.5 は「判例・裁判例の要旨抽出」「短答・論文答案の自動採点」「模擬口頭試問」「ケーススタディのロールプレイ」に適用できる。NII(国立情報学研究所)は 2026 年 4 月、日本語処理特化の 8B・32B 国産 LLM「LLM-jp-4」をオープンソースで公開しており³⁵、機微情報を扱う教育用途にはオンプレ日本語 LLM との併用が望ましい。

第 7 章 留意点・批判的考察

- (1)「2026 年 4 月 24 日発表」の正確性。本稿は、米国時間 2026 年 4 月 23 日の OpenAI 公式発表を踏まえて、日本時間 4 月 24 日にレポートを発行する前提で構成した。OpenAI 公式ブログ¹・システムカード⁹・Artificial Analysis 独立評価⁵・TechCrunch³・CNBC²⁰・Fortune²¹・Axios¹⁰・日経クロステック¹¹等、複数の信頼できる一次・二次ソースでの確認に基づく。
- (2)一部データの暫定性。ベンチマークスコアは発表直後であるため、OpenAI 自己申告・Artificial Analysis 速報値が混在する。SWE-Bench Pro のメモリゼーション懸念^{1,7}、Anthropic 側の BrowseComp・MCP-Atlas におけるプロンプト調整の扱い¹等、方法論レベルの注釈がある。
- (3)API 未提供期間の実務影響。本稿執筆時点で gpt-5.5 API 識別子は未リリース。企業知財部が API 前提の自動化を組む場合は、OpenAI 公式のリリースアナウンスを再確認のうえ開始する必要がある^{1,23}。
- (4)日本語性能の未検証部分。Nejumi Leaderboard 4 での正式評価が公表され次第、業務適用判断を再評価することを推奨する³⁷。
- (5)弁理士法 75 条リスク。AI 出力をそのまま庁提出文書として用いる場合、弁理士の監督・最終責任が不可欠であり、無資格法人によるサービス提供は適法性確認が必須である^{62,74}。
- (6)セキュリティ・データガバナンス。発明情報の入力、秘密性を確保できるツール(Enterprise プラン、Zero Data Retention 設定、オンプレ LLM)で行い、学習利用・再委託先問題を意識する必要がある⁸⁰。

結論

GPT-5.5 は、OpenAI が GPT-4.5 以降初のフル再訓練ベースモデルとして投入したフロンティアモデ

ルであり、エージェント的コンピュータ使用・経済価値タスク・コーディングにおいて明確な業界最先端(SOTA)を示した¹⁵。一方、純粋な博士級推論や多言語 QA、高解像度ビジョンでは Claude Opus 4.7・Gemini 3.1 Pro が一部優位を維持する⁷。知財実務においては、(a)明細書ドラフティング、(b)先行技術調査、(c)IP ランドスケープ、(d)契約レビュー、(e)無形資産開示の各領域で実務水準を一段引き上げる潜在力を持つが、API 提供遅延・価格倍増・幻覚の残存・弁理士法上の監督要件・EU AI Act/日本 AI 推進法への対応といった運用上の留意点は依然存在する。

2026 年は、OpenAI の Sam Altman 氏自身が「発明する AI の年」と位置付けた時期であり⁸¹、弁理士・企業知財部は「AI に任せる工程」と「人間が責任を持つ工程」を明確に線引きしつつ、IPIAGA/IPIAGPA が牽引する無形資産ガバナンスの潮流の中で、AI 活用を戦略的投資として位置付けることが求められる。

参考文献

1. OpenAI, Introducing GPT-5.5, 2026 年 4 月 23 日. <https://openai.com/index/introducing-gpt-5-5/>
2. OpenAI, API Pricing, 2026 年 4 月. <https://openai.com/api/pricing/>
3. Lucas Matney, OpenAI releases GPT-5.5, bringing company one step closer to an AI 'super app', TechCrunch, 2026 年 4 月 23 日. <https://techcrunch.com/2026/04/23/openai-chatgpt-gpt-5-5-ai-model-superapp/>
4. Ofox AI, GPT-5.5 Released: First Fully Retrained Base Model Since GPT-4.5, 1M Context, 2026 年 4 月 23 日. <https://ofox.ai/blog/gpt-5-5-release-guide-2026/>
5. Artificial Analysis, OpenAI's GPT-5.5 is the new leading AI model, 2026 年 4 月 23 日. <https://artificialanalysis.ai/articles/openai-gpt5-5-is-the-new-leading-AI-model>
6. Artificial Analysis, GPT-5.5(xhigh)Intelligence, Performance & Price Analysis, 2026 年 4 月. <https://artificialanalysis.ai/models/gpt-5-5>
7. Kingy AI, GPT-5.5 Benchmarks Revealed: The 9 Numbers That Prove ChatGPT 5.5 Just Changed the AI Race, 2026 年 4 月 23 日. <https://kingy.ai/ai/gpt-5-5-benchmarks-revealed-the-9-numbers-that-prove-chatgpt-5-5-just-changed-the-ai-race/>
8. Aihubinfo, GPT-5.5 徹底レビュー:新機能・実データ・価格・競合比較, 2026 年 4 月. <https://aihubinfo.github.io/familypro/ja/blog/gpt-5-5-deep-review-coding-research-tools-pricing-comparison-2026/>
9. OpenAI, GPT-5.5 System Card, 2026 年 4 月 23 日. <https://openai.com/index/gpt-5-5-system-card/>
10. Axios, OpenAI releases 'Spud' GPT-5.5 model, 2026 年 4 月 23 日. <https://www.axios.com/2026/04/23/openai-releases-spud-gpt-model>
11. 日経クロステック, 米 OpenAI が GPT-5.5 発表、コーディング能力やセーフガードなど強化, 2026 年 4 月 24 日. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/03192/>
12. AI 総合研究所, GPT-5.5 とは?使い方や料金、GPT-5.4 との違いを解説, 2026 年 4 月. <https://www.ai-souken.com/article/what-is-gpt-5-5>
13. SBBIT, 米 OpenAI、新画像生成モデル「ChatGPT Images 2.0」を発表, 2026 年 4 月. <https://www.sbbit.jp/article/cont1/184892>
14. Yasuhito Morimoto, OpenAI が「ChatGPT Images 2.0」を発表, note, 2026 年 4 月 22 日. <https://note.com/yasuhitoo/n/nc60293bfe548>
15. NVIDIA Blog, OpenAI's New GPT-5.5 Powers Codex on NVIDIA Infrastructure, 2026 年 4 月 23 日. <https://blogs.nvidia.com/blog/openai-codex-gpt-5-5-ai-agents/>
16. OpenAI Help Center, Model Release Notes, 継続更新. <https://help.openai.com/en/articles/9624314-model->

[release-notes](#)

17. OpenAI Help Center, ChatGPT Release Notes, 継続更新. <https://help.openai.com/en/articles/6825453-chatgpt-release-notes>
18. The Neuron, GPT-5.4 Review: OpenAI's Best Model Yet, 2026 年 3 月. <https://www.theneuron.ai/explainer-articles/everything-to-know-about-gpt-54/>
19. OpenAI Help Center, GPT-5.3 and GPT-5.5 in ChatGPT, 2026 年 4 月更新.
<https://help.openai.com/en/articles/11909943-gpt-53-and-gpt-54-in-chatgpt>
20. CNBC, OpenAI announces GPT-5.5, its latest artificial intelligence model, 2026 年 4 月 23 日.
<https://www.cnn.com/2026/04/23/openai-announces-latest-artificial-intelligence-model.html>
21. Fortune, OpenAI launches GPT-5.5 just weeks after GPT-5.4 as AI race accelerates, 2026 年 4 月 23 日.
<https://fortune.com/2026/04/23/openai-releases-gpt-5-5/>
22. SiliconANGLE, OpenAI releases GPT-5.5 with advanced math, coding capabilities, 2026 年 4 月 23 日.
<https://siliconangle.com/2026/04/23/openai-releases-gpt-5-5-advanced-math-coding-capabilities/>
23. Simon Willison, A pelican for GPT-5.5 via the semi-official Codex backdoor API, 2026 年 4 月 23 日.
<https://simonwillison.net/2026/Apr/23/gpt-5-5/>
24. Ethan Mollick, Sign of the future: GPT-5.5, One Useful Thing, 2026 年 4 月 23 日.
<https://www.oneusefulthing.org/p/sign-of-the-future-gpt-55>
25. KOTOBETECH, OpenAI が GPT-5.5 を発表 | 新機能・GPT-5.4 との違い・使い方を解説, 2026 年 4 月 24 日.
<https://kotobetech.jp/2026/04/24/openai-gpt-5-5/>
26. Build Fast with AI, Claude Opus 4.7: Full Review, Benchmarks & Features(2026), 2026 年 4 月 16 日.
<https://www.buildfastwithai.com/blogs/claude-opus-4-7-review-benchmarks-2026>
27. Vellum, Claude Opus 4.7 Benchmarks Explained, 2026 年 4 月 16 日. <https://www.vellum.ai/blog/claude-opus-4-7-benchmarks-explained>
28. Evolink, Claude Opus 4.7 Review(2026), 2026 年 4 月. <https://evolink.ai/blog/claude-opus-4-7-review-2026>
29. LLM Leaderboard, Claude Opus 4.7: Benchmarks, Pricing, Context & What's New, 2026 年 4 月. <https://llm-stats.com/blog/research/claude-opus-4-7-launch>
30. Google Blog, Gemini 3.1 Pro: A smarter model for your most complex tasks, 2026 年 2 月 19 日.
<https://blog.google/innovation-and-ai/models-and-research/gemini-models/gemini-3-1-pro/>
31. Google DeepMind, Gemini 3.1 Pro Model Card, 2026 年 2 月. <https://deepmind.google/models/model-cards/gemini-3-1-pro/>
32. DataCamp, Gemini 3.1: Features, Benchmarks, Hands-On Tests, and More, 2026 年 2 月.
<https://www.datacamp.com/blog/gemini-3-1>

33. SmartScope, Behind Gemini 3.1 Pro's '13 out of 16 Wins' Analysis, 2026 年 2 月.
<https://smartscope.blog/en/generative-ai/google-gemini/gemini-3-1-pro-benchmark-analysis-2026/>
34. Webiano Digital, No, GPT-5.5 is not official yet and Kimi K2.6 is already pressuring OpenAI, 2026 年 4 月.
<https://webiano.digital/no-gpt-5-5-is-not-official-yet-and-kimi-k2-6-is-already-pressuring-openai/>
35. 株式会社仁頼, 2026 年 4 月 生成 AI10 大ニュース, 2026 年 4 月. <https://jinrai.co.jp/blog/2026/04/05/ai-news-202604/>
36. Labmemo, オープンソース LLM 入門 2026 年無料 AI が有料に追いついた理由, 2026 年.
<https://labmemo.com/opensource-llm-beginner-2026/>
37. 株式会社 Qualiteg, 日本語対応 LLM ランキング 2025 ～ベンチマーク分析レポート～(12 月 18 日版), 2025 年 12 月 18 日. <https://blog.qualiteg.com/llm-ranking-2025/>
38. Lexology, DeepIP vs Solve Intelligence: A Practical Comparison of AI Patent Drafting Tools(2026), 2026 年.
<https://www.lexology.com/library/detail.aspx?g=a945581a-89b2-45ca-9a37-894711af9cdc>
39. TechCrunch, Solve Intelligence raises fresh 12M to bring AI to IP, patent workflows, 2025 年 4 月 9 日.
<https://techcrunch.com/2025/04/09/microsoft-backs-solve-intelligence-in-12m-series-a-funding/>
40. Solve Intelligence, Solve Intelligence 2026: New Investors, Customers & Products, 2026 年 1 月.
<https://www.solveintelligence.com/blog/post/kicking-off-2026-new-investors-new-customers-new-product-features>
41. Tokkyo.Ai, 生成 AI Tokkyo.Ai プライベート AI 特許, 2025-2026 年. <https://www.tokkyo.ai/pvt/gpt/>
42. Toreru Support, 新サービス「Toreru 特許」を正式リリースいたしました, 2024 年 12 月 16 日.
<https://support.toreru.jp/hc/ja/articles/41046892434969>
43. ユアサポ AI 公式サイト, 2025-2026 年. <https://yoursup.co.jp/>
44. Evort(Patentfield), 生成 AI 特許検索・調査・分析・査読 Patentfield AIR, 2024-2026 年.
<https://evort.jp/article/patentfield-air>
45. Patentfield, Patentfield AIR 生成 AI 調査・分析オプション.
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air>
46. Amplified, Amplified AI 特許調査プラットフォーム. <https://www.amplified.ai/ja/home>
47. G2, IPRally Reviews 2026, 2026 年. <https://www.g2.com/products/iprally/reviews>
48. 特許庁, 令和 5 年度中小企業等知財支援施策検討分析事業 人工知能を利用した特許情報分析等の有効性に関する調査実証研究報告書, 2024 年 3 月. <https://www.jpo.go.jp/resources/report/chiiki-chusho/document/r5-chusho-shien-bunseki/report.pdf>
49. 特許庁広報誌「とっきょ」, 新時代に挑む知財戦略 IP ランドスケープのススメ「旭化成株式会社」, 2021 年 9 月 14 日. https://www.jpo.go.jp/news/koho/kohoshi/vol49/01_page1.html

50. Biz/Zine, 旭化成の IP ランドスケープ活用, 2021 年. <https://bizzine.jp/article/detail/5047>
51. TechnoProducer, 三井化学の知財戦略と分析—サステナビリティ時代の基盤としての無形資産管理, 2024-2025 年. https://www.techno-producer.com/ai-report/mitsuichemicals_ip_strategy_report/
52. Deloitte Japan, AI を活用した IP ランドスケープ分析.
<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/strategy/solutions/ipa/ai-ip-analytics.html>
53. PR TIMES(株式会社 Toreru), Toreru が日本初の AI による無料の商標調査・出願サービスを再開, 2022 年 9 月 12 日. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000035800.html>
54. 日本経済新聞, 商標登録のトレル、AI 検索エンジンを公開, 2019 年.
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO46544920V20C19A6XY0000/>
55. Toreru Media, 生成 AI は知財業務にどんな影響を与えるのか 商標業務への活用例も踏まえて.
<https://toreru.jp/media/trademark/7924/>
56. PlatinumIDS Blog, The Billion-Dollar Legal AI Arms Race: Harvey's 11B, Legora's 5.5B, 2026 年 3-4 月.
<https://blog.platinumids.com/blog/legal-ai-billion-dollar-arms-race-2026>
57. Eric Newcomer, Harvey & Legora in a Land-Grab Race for Dominance of Legal AI, 2026 年 4 月 1 日.
<https://www.newcomer.co/p/harvey-and-legora-in-a-land-grab>
58. TAMradar, Harvey Raises 200M Growth Round for Legal AI, 2026 年 3 月.
<https://www.tamradar.com/funding-rounds/harvey-growth-200m-legal-ai>
59. W&B Nejumi LLM Leaderboard 4, 継続更新. <https://github.com/wandb/llm-leaderboard>
60. 特許庁, 特許・実用新案審査基準 第 III 部第 2 章第 2 節 進歩性.
https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/guideline/patent/tukujitu_kijun/document/index/03_0202bm.pdf
61. 特許庁, 特許・実用新案審査基準 第 III 部第 2 章第 3 節 新規性・進歩性の審査の進め方.
https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/guideline/patent/tukujitu_kijun/document/index/03_0203.pdf
62. 日本弁理士会, AI 等を用いた業務支援サービスの提供と弁理士法第 75 条との関係について, 2025 年 4 月.
<https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-article75.pdf>
63. Thompson Patent Law, Artificial Intelligence Patents in 2026: What's Patentable?, 2026 年.
<https://thompsonpatentlaw.com/artificial-intelligence-patents/>
64. 特許庁, 類似商品・役務審査基準〔国際分類第 13-2026 版対応〕, 2025 年 12 月.
https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/guideline/trademark/ruiji_kijun/ruiji_kijun13-2026.html
65. 日本経済新聞, メタバースのデザイン模倣排除、意匠法改正へ 知的財産計画に明記, 2025 年 4 月.
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA251LR0V20C25A4000000/>
66. ナラハ奈良法律事務所, AI の知財侵害を防ぐ 2026 年、意匠法改正も視野に(特許庁), 2024-2025 年.
<https://kigyohoumu-naraha-law.jp/wp/?p=1220>

67. Aztec Corporation, Recent Trends in Design Protection and System Reforms in Japan, 2025-2026 年.
<https://aztec.co.jp/en/news/columns/8423>
68. 文化庁著作権課, 生成 AI をめぐる最新の状況について, 2025 年 9 月 11 日.
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/workingteam/r07_01/pdf/94269701_04.pdf
69. 内閣府知的財産戦略推進事務局, 知財・無形資産ガバナンスガイドライン Ver 1.0, 2022 年 1 月.
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousakai/tousi_kentokai/governance_guideline/pdf/shiryo1.pdf
70. アシックス, アシックスが「知財・無形資産ガバナンス表彰(2025 年度)」の最優秀賞を受賞, 2026 年 3 月 16 日.
https://corp.asics.com/jp/press/article/2026-03-16_ip-governance
71. デクセリアルズ, 「第 1 回知財・無形資産ガバナンス表彰」特別賞を受賞, 2025 年.
<https://www.dexerials.jp/news/2025/news25010.html>
72. 知財・無形資産ガバナンス推進協会(IPIAGPA)公式サイト.
<https://ipiagpa.net/>
73. 一般社団法人 知財・無形資産ガバナンス協会(IPIAGA)公式サイト.
<https://ipiaga.org/>
74. パテント誌(日本弁理士会)Vol.75 No.2, 弁理士業務と AI 特許作成.
<https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/3945>
75. フィデックス株式会社, 2025 年 AI 法規制総まとめ, 2025 年 12 月.
<https://www.fidx.co.jp/2025年ai法規制総まとめ>
76. International Bar Association, Japan's emerging framework for responsible AI, 2025 年 7 月.
<https://www.ibanet.org/japan-emerging-framework-ai-legislation-guidelines>
77. AI 総合研究所, 生成 AI ガイドライン一覧, 2026 年 3 月.
<https://www.ai-souken.com/article/ai-generation-guidelines-introduction>
78. デジタル庁, 行政の進化と革新のための生成 AI の調達・利活用に係るガイドライン(DS-920), 2025 年 5 月 27 日.
https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e2a06143-ed29-4f1d-9c31-0f06fca67afc/80419aea/20250527_resources_standard_guidelines_guideline_01.pdf
79. 特許庁, AI 関連技術に関する特許審査の事例について.
https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/guideline/patent/ai_jirei.html
80. 高野誠司特許事務所, 生成 AI による特許出願書類作成は危険!?, 2023 年.
<https://takano-pat.com/news/column-20231009/>
81. 宮崎超史, AI を使った無料の「Torero 発明支援」をリリースしました, note, 2025 年 7 月.
https://note.com/masafumi_miya/n/nc3aecda90fee

免責事項

本レポートは 2026 年 4 月 24 日時点の公開情報に基づく。OpenAI API の正式公開時期、GPT-5.5 の

Nejumi Leaderboard 4 等日本語ベンチマーク最終値、意匠法改正法案の国会提出内容は後日の公式アナウンスで確認されたい。また、AI を用いた知財業務は弁理士法 75 条・守秘義務・AI 事業者ガイドライン v1.1(2025 年 3 月)・EU AI Act(2026 年 8 月完全適用)への適合確認が必須である。